

結婚広告

(事務所の窓口のざわめき。新聞をめくる音)

ラジオ・アナウンサー ラジオをお聞きの皆様。ただ今から、「日刊市内報」の窓口から、ラジオレポートをお送りいたします。はい、切り替えます！
カール・ファレンティン すみません、この窓口でいいのでしょうか。お宅の新聞に、ある結婚広告が載ってたんです。「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めております、云々」私はこの広告を読んだのです。だいたい 四、五週間前にお宅の新聞で。でもその新聞をなくしてしまいましたね。ですから、どうか私のために、この記事の載った新聞を恐縮ですが探して下さいませんか。
リースル・カールシュタット それは困りましたね。正確な日付がわからないとなると、かなり難しいですよ。

KV その広告はだいたい縦五センチ、横三センチで、「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めております、云々」というのです。

LK 四、五週間前とおっしゃいましたわね。あなた、いくら何でも、五週間前からの新聞を全部、私にめぐってみると言っんじゃありませんわよね。

KV お願いしますよ！ ひよっとすると最初に開いてみた号に出ているかもしれませんが。

LK いいえ そんな偶然はまあないでしょう。

KV 「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めております、云々」です。広告の大きさはだいたい縦五センチ、横三センチなんです。

LK こんなにたくさんさんの新聞の中から、その広告を見つけ出すなんて、無理ですよ。

KV でも、載っているのは確かなんですよ。

LK ええ、ええ、他のもいつしよにね。

KV 他には興味ありません。私が興味を持つてるのは、あの一っだけなんです。あの広告は、さつきも言いましたけど、だいたい縦五センチ、横三センチで、文面は「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めております、云々」です。

LK ほら、ご覧なさい、もう十日分の新聞を調べましたよ。私、他にもや

らなくてはならない仕事があるんですよ。

KV お嬢さん、お願いしますよ。あなたは私に幸福をもたらしてくれるかもしれないんです。すべてあの広告にかかっているんです。あの小さな広告、縦五センチ、横三センチ、「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めています、云々」に。

LK ええ、あの広告の文句のことはもうわかってますよ。ご自分で探して下さいな。 私は見つけれませんでした。

KV 四、五週間前に、その広告を確かに読んだのですよ。「孤独な未亡人が……」

LK もう、その孤独な未亡人のお話はやめて下さい。

KV やめろっていいんですか？ 私はこの孤独な未亡人とおつき合いを始めたいんです。やめるんじゃない。だからこうしてあの広告が見つかるまで探してくれるよう、お願いしてるんじゃないやありませんか。広告の大きさはだいたい……

LK ……縦五センチ、横三センチでしょ！ そんなサイズの広告はうちの新聞にはいくらでもありますよ。

KV ええ、それは承知しておりますけど、でもあの広告で重要なのはサイズだけじゃなくて、文句もなんです。「孤独な未亡人が再度、結婚に幸せを求めています、云々」

LK ええ、結婚ですね その広告を見つけるよりも他の未亡人を探した方が早いですわ。ミュンヘンには大勢いるでしょう。

KV いいえ 私はあの「再度、結婚に幸せを求めている孤独な未亡人」でないといやなんです。

LK もう、うんざりだわ。五週間前からの結婚広告をもう全部、調べましたよ。でも、載ってなかった。お客様は本当にうちの新聞で、その広告をお読みになったんですか？

KV ええ、もちろんです。

LK ひよっとして「地方報」ではありませんか？ ここは「市内報」の編集部ですけど。

KV そうか！ 「地方報」でした。

LK もう、この、とんまのおたんこ……

ラジオ・アナウンサー 切り替えます！